

直線圖式計算法ノ實例

工學士 岡 部 三 郎

從來ノ曲線圖式解法カ圖面ノ製作並ニ利用上ニ不便少カラサリシカタメ近頃之一代リテ直線圖式解法 (Nomographic chart) カ種々ナル方面ニ應用サル、ニ至レリ予ハ今回技術者ノ常ニ遭遇スル二三公式ノ直線圖式解法ノ實例ヲ掲ケントス

ばさん氏ノ流速公式ハ既ニ土木學會誌第二卷第五號ニ於テ工學士鶴見氏ノ提出サレタルモノト殆ント一致セルカ故ニ之ヲ略シ茲ニく、たゝ氏ノ流速公式並ニ三次方程式ノ圖式解法ヲ説明セントス若シ此ノ方法カ實用上多少世ニ貢獻スル事ヲ得ハ予カ豈外ノ幸ナリ
勿論此ノ方法ハ計算尺ト同シク正確ナル結果ヲ得ル事能ハサレトモ製圖ト印刷トニ充分ノ注意ヲ拂ヘハ普通必要ナル數字ヲ求ムル事敢テ困難ナラサルヘシ

一 く、たゝ氏流速公式ノ圖式解法

$$V = C\sqrt{RS} \quad (\text{英國單位})$$

$$C = \frac{41.6 + \frac{0.00281}{S} + \frac{1.811}{n}}{1 + \left(41.6 + \frac{0.00281}{S}\right)^{\frac{2}{n}} \sqrt{R}}$$

V = 流速

C = 流速係數

R = 動水浸深

S = 水面勾配

n = 河底ノ摩擦係數

$$K = 41.6 + \frac{0.00281}{S}$$

$$J = \frac{1}{S}$$

(イ) S, R 及 n ノ 與 ヘ テ C ヲ 求 ム ン 場 合

第一ノ方法

原式ヲ變化スレハ

$$C = \frac{K + \frac{1.811}{n}}{1 + K \frac{n}{V R}}$$

$$\therefore \frac{C n}{\sqrt{R}} = \frac{K n + 1.811}{\sqrt{R} + K n} \quad \therefore \frac{C n}{\sqrt{R} - C n} = \frac{K n + 1.811}{\sqrt{R} - 1.811}$$

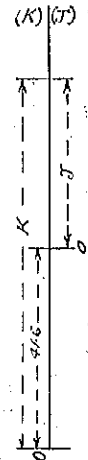
$$p = K n \dots \dots \dots (1)$$

$$q = C n \dots \dots \dots (2)$$

トスレハ

$$\frac{q}{\sqrt{R} - q} = \frac{p + 1.811}{\sqrt{R} - 1.811} \dots \dots \dots (3)$$

Kヲ求ムル圖式



第一圖

第一圖ニ示ス如ク一直線ノ左側ニ一定ノ目盛リヲナシ其ノ四一六ニ相等セル點ヲ零トシテ右側ニ其ノ〇〇〇二八一倍セル目盛リヲ施シ之ヲJノ目盛リトナセハ任意ノJ

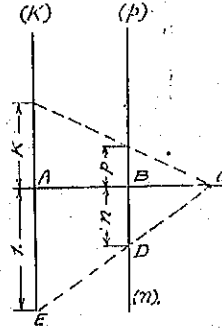
ニ相等スル左側ノ目盛リカ直ニKヲ示ス

pヲ求ムル圖式

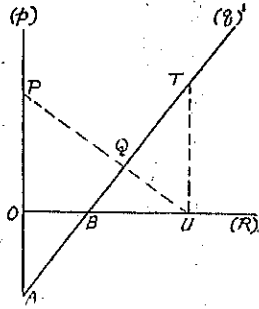
$$p = Kx \quad \therefore \frac{K}{p} = \frac{1}{x}$$

第二圖ニヨリ此ノ關係カ満足サルノ事明ラカナリ實際ニハB⁽ⁿ⁾上ニnヲ求メE點ト結ヒ之ヲ延長シテO點ヲ求ムル代リニD點ノnニ相等スル値ヲ豫メBO軸上ニ目盛リシテ之ヲnノ尺度トナス

qヲ求ムル圖式



第二圖



第三圖

$$OA = OB = 1.811$$

$$TU = BU = OU - OB$$

$$AP = OA + OP = 1.811 + OP$$

$$QT = AT - AQ$$

$$\frac{AP}{TU} = \frac{AQ}{TQ}$$

$$\frac{OP + 1.811}{OU - 1.811} = \frac{AQ}{AT - AQ}$$

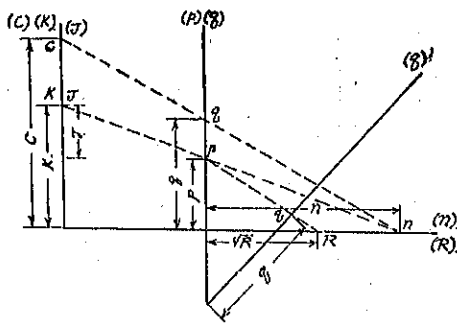
$A(q)$ ノ目盛リヲ丁度 $O(E)$ ノ目盛リノ $\sqrt{2}$ 倍トスルハ $A(q)$ ノ目盛リノ正射影ハ $O(E)$ ノ目盛リト一致ス
 今 $OP=p, OU=\sqrt{R}=AT, AQ=q$ トスルハ(3)式

$$\frac{p+1.811}{\sqrt{R-1.811}} = \frac{q}{\sqrt{R-q}}$$

カ満足サル、カ故ニ p ヲ (p) 軸上ニ R ヲ (R) 軸上ニ取り其ノ二點ヲ結ビ (q) 軸ト交ル點ヲ Q トスレハ
 AQ ハ求ムル q ヲ示スモノナリ

○ヲ求ムル圖式

$$q = Oq$$



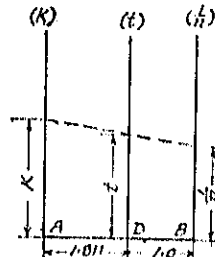
第四圖

ナルカ故ニ n 及ヒ q カ知ラレタル以上前記ノ p ヲ求ムル方法ト全ク同
 様ニ C ヲ求ムル事ヲ得

以上ノ結果ヲ綜合スレハ次ノ如シ(附圖 PL. I. 参照)
 (p) 及ヒ (R) ノ目盛リハ同シ數ニ對シテ (C) ト (K) ノ目盛リノ二十倍トシ
 (q) ノ目盛リハ (R) ノ $\sqrt{2}$ 倍トスルノ目盛リハ (C) ノ二千倍ヲ (p) 軸ニ取り其ノ各
 目盛リト (C) ノ百ノ點トヲ結ビ (n) 軸ト交ル點ニ示セルモノナリ

此ノ圖式ノ用法ハ先ツ與ヘラレタル J ト A ノ左側ハ K ヲ示セトモ讀ム
 必要ナシ n トヲ結ビ (p) 軸ト交ル點 p ヲ求メ p ト (R) 軸上ノ與ヘラレタル
 R トヲ結ヘハ (q) 軸ト交ル點 q ヲ示ス其ノ値ヲ (q) 軸上ニ取り再ヒ之ト

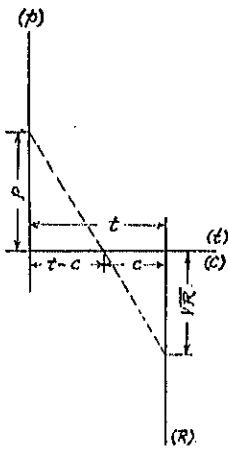
ハトヲ結ヒ之ヲ延長スレハ C 軸ト交ル點カ求メントスル C ヲ與フ
 第二ノ方法



第 五 圖

第 五 圖 第 一 ノ 方 法 ト 同 様 ナリ
 Pヲ 求 ム ル 圖 式
 tヲ 求 ム ル 圖 式

第 五 圖 ニ 於 テ (t) ノ 目 盛 リ ヲ $\frac{1}{n}$ 軸 又 ハ (K) 軸 ノ 目 盛 リ ノ $\frac{1}{2811}$ ト ス レ ハ 普 通
 ノ の も ぐ ら ふ い っ く ノ 原 理 ニ ヨ リ (2) 式 ノ 満 足 サ ル 、 事 明 白 ナ リ



第 六 圖

Cヲ 求 ム ル 圖 式

比 例 ノ 性 質 ニ ヨ リ 第 六 圖 カ (3) 式 ヲ 示 ス 事 敢 テ 證 明 ヲ 要 セ
 サ ル ヘ シ 只 此 ノ 場 合 願 ル 不 便 ナ ル ハ カ 定 數 ナ ラ サ ル カ
 故 ニ t ノ 或 ル 値 毎 ニ (t) 軸 ヲ 記 入 ス ル ヲ 要 ス

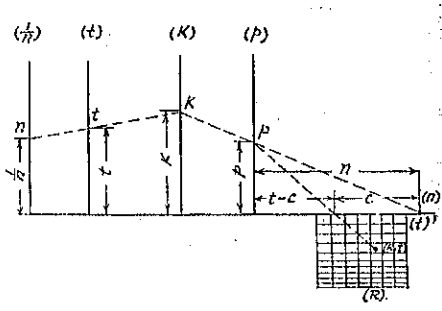
以 上 ノ 結 果 ヲ 綜 合 ス レ ハ 次 ノ 如 シ
 先 ツ $\frac{1}{n}$ 軸 ト (K) 軸 ト ニ 夫 レ 夫 レ ノ t K ト ヲ 取 リ t ヲ 求 メ
 次 ニ (K) 軸 ト (n) 軸 ト ノ K ト n ヲ 結 ビ テ P ヲ 求 メ (2) 座 標 上
 (p) 軸 ヲ 多 數 畫 ク 代 リ ニ (p) 軸 ヲ t ニ 應 シ テ 畫 ク モ 可 ナリ

$$C = \frac{K + 1811}{1 + \frac{K}{\sqrt{R}}}$$

$$p = Kn \dots \dots \dots (1)$$

$$K + \frac{1811}{n} = t \dots \dots \dots (2)$$

$$\therefore C = \frac{t}{1 + \frac{p}{\sqrt{R}}} = \frac{\sqrt{R}t}{\sqrt{R} + p} \quad \therefore \frac{C}{t - C} = \frac{\sqrt{R}}{p} \dots \dots \dots (3)$$



第七圖

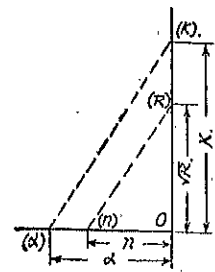
aヲ求ムル圖式

tヲ求ムル圖式ハ第二ノ方法ト同様ナリ

$$C = \frac{K + \frac{1.811}{n}}{1 + \frac{K\alpha}{\sqrt{R}}} \quad \dots \dots \dots (1)$$

$$t = 1 + \frac{1.811}{n} \quad \dots \dots \dots (2)$$

$$a = \frac{K\alpha}{\sqrt{R}} \quad \dots \dots \dots (3)$$



第八圖

第八圖ニ於テ若シ (R)(n) ト (K)(a) トカ平行ナラハ

$$\frac{K}{\sqrt{R}} = \frac{a}{n} \quad \text{ナルカ故ニ}$$

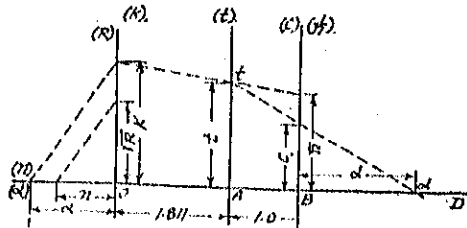
$$a = \frac{K\alpha}{\sqrt{R}} \quad \text{トナル}$$

K R 及ヒ n カ與ヘラレタル場合ニハ平行線ヲ畫ク事ニヨリテ a ヲ求ムル事ヲ得

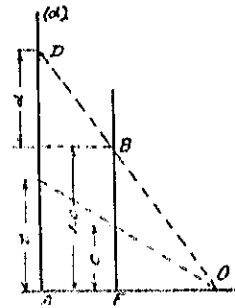
oヲ求ムル圖式
第九圖ニヨリテ

$$O = \frac{t}{1+a}$$

ナル關係ノ満足サル、事明白ナリ實際ノ圖面ニテハ a ヲ A(2) 軸上ニ



第十圖



第九圖

求メ之トBヲ結ヒ延長シテO點ヲ求ムル代リニ豫メAO軸上ニαニ相
 等スル目盛りヲ施スモノトス
 以上ノ結果ヲ綜合スレハ次ノ如シ(附圖 PL. 2 參照)
 先ツK(附圖ニテハKヲ求メスシテ直接ニ與ヘラレタルJノ目盛りノ點
 ヲ使用ス)Kヲ知リテαヲ求メ次ニO點ヲ求メBD軸上ノαトシテ結
 ヒテCヲ求ム
 勿論L及ヒCノ目盛りハ他ノ $\frac{1}{2SII}$ ナリ
 (ロ) Sn及ヒCヲ與ヘテRヲ求ムル場合
 第一第二第三何レノ方法ニテモ逆ニRヲ求ムル事ヲ得
 (ハ) nC及ヒRヲ與ヘテSヲ求ムル場合
 第一ノ方法ニテCヲ求ムル場合ト反對ニシテSヲ求ムル事ヲ得ヘシ然
 レトモ第二及ヒ第三ノ方法ニテハSヲ求ムル事能ハス此ノ點ニ於テ第
 一ノ方法カ最モ優レリト云フヲ得ヘシ
 (ニ) CR及ヒSヲ知リテnヲ求ムル場合
 nハ二次式トナリテ含マレ居ルタメ前述ノ何レノ方法ニテモ求ムル事
 能ハサルカ故ニ次ニ示ス如キ方法ヲ用ヒサルヘカラス

$$C = \frac{K + \frac{1-SII}{n}}{1 + \frac{K_n}{V/E}}$$

今

$$\therefore n^2 + \frac{(C-K)\sqrt{R}}{CK} n = \frac{1.811\sqrt{R}}{CK} \dots \dots \dots (1)$$

$$\frac{1.811\sqrt{R}}{CK} = q \dots \dots \dots (2)$$

$$\frac{(C-K)\sqrt{R}}{CK} = p \dots \dots \dots (3)$$

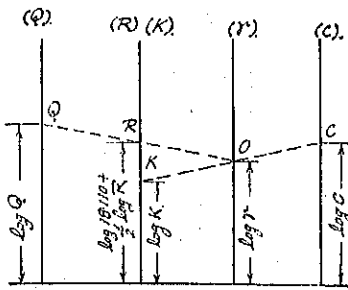
$$\frac{1.811}{C-K} = \frac{q}{p} \dots \dots \dots (4)$$

$$n^2 + pn = q \dots \dots \dots (5)$$

ト ス レ ハ

ト ナ ル

實際ニハnヲ百倍セルモノヲ求ムルヲ可トスルカ故ニ 100p = P, 10,000q = Q ト ス レ ハ (2) (4) 及 ビ (5) ヨリ次ノ關係ヲ得



第 十 一 圖

Qヲ求ムル圖式

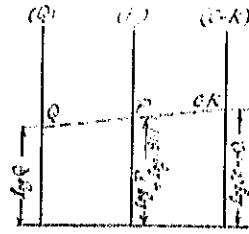
$$\log 18,110 + \frac{1}{2} \log R - \log Q = \log C + \log K = \log Y$$

$$\left\{ \begin{array}{l} \log 18,110 + \frac{1}{2} \log R = \log Q + \log Y \dots \dots \dots (6) \\ \log C + \log K = \log Y \dots \dots \dots (7) \end{array} \right.$$

$$\log 181.1 + \log P = \log Q + \log (C-K) \dots \dots \dots (8)$$

$$n_1^2 + Pn_1 = Q \dots \dots \dots (9)$$

對數目盛リヲ用フレハ第十一圖ニ示ス圖カ一般原理ニヨリ(7)(6)式ヲ満足スル事明ラカナリ先ツ
 CトEヲ結ヒOヲ求メ次ニOトEヲ結ヒ延長シテQヲ求ムル事ヲ得



第十二圖

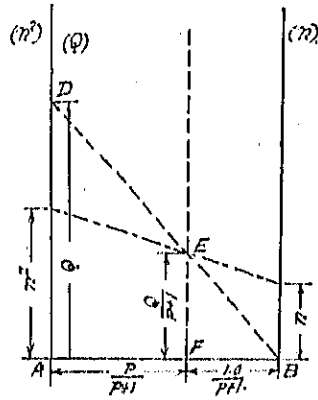
Pヲ求ムル圖式

第十二圖カ(8)式ヲ満足スルカ故ニQト(C-E)トヲ結ヘハ直チニPヲ求ムル
 事ヲ得

第十三圖ニ於テ(Q)軸ノ目盛リカ及ヒ n^2 ノ目盛リノ

一般原理ニヨリ方程式(9)カ満足サル、モノナリ(三次方程式解法證明參照
 $\frac{1}{p+1}$ トナル様ニスレ

用法



第十三圖

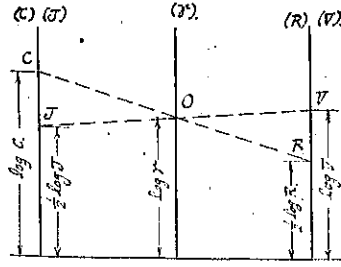
AB 軸上ニDヲ求メ $\frac{1}{p+1}$ ナルD點トBヲ結ヒD點ヲ過キル垂
 直線トノ交點ヲEトシ常ニEヲ含ム直線ヲEノ周リニ回轉シ(n)
 軸及ヒ (n^2) 軸ト交叉スル點ノ數字カ同シ値ヲ示ス場合ニ定規ヲ止
 ムレハ其處ニ順レタル數字カ求ムル根ナリ
 Pカ負數ノ場合ニハ(n)軸ヲBノ下方ヘ延長シテ其ノ上ノ數字ト
 (n^2) 軸ノ數字トカ同シ値ヲ示セハ其レカ求ムル根ナレトモ斯クノ
 如キ事ハ非常ナル緩勾配ニシテ而モ河床ノ摩擦大ナル場合ニノ

(附圖 Pl. 3. 參照)

(ホ) C E S 及ヒ P ノ内何レカ三ツヲ知リテ他ノ一ツヲ求ムル場合

第一ノ方法

對數ノ目盛リヲ用ヒテ積ヲ和ノ形トナシ一般原理ヲ應用ス



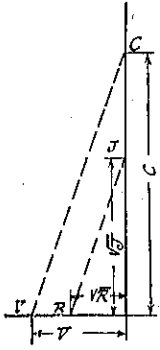
第 十 四 圖

第十四圖ニヨリテ此ノ式ノ満足サルノ事敢テ證明ヲ要セサルヘシ
 用法
 Vヲ求ムルニハ先ツCトRヲ結ビY軸ト交ル點OトJトヲ結ビ之ヲ延長シ
 テ(V)軸ト交ル點Vノ目盛リヲ讀メハ可ナリ其他C等ヲ求ムル場合モ全ク同
 様ナリ(附圖PL. 1. 參照)

第二ノ方法

$$V = C \frac{\sqrt{R}}{\sqrt{J}}$$

$$\frac{V}{\sqrt{R}} = \frac{C}{\sqrt{J}} \dots \dots \dots (1)$$



第 十 五 圖

VCトRJトカ平行ナラハ相似形ノ性質ニヨリ第十五圖ノ圖形カ
 (1)ヲ満足スル事明ラカナルカ故ニCRS及ヒVノ内何レカ三ツ
 ヲ與フレハ平行線ヲ引ク事ニヨリ他ノ一ツヲ求ムル事ヲ得(附
 圖PL. 2. 參照)

二 三次方程式ノ圖式解法

一般式

ナル形ニテ與ヘラレタル場合ニハ

$$ax^2+bx+c+CX+d=0$$

$$X=x-\frac{h}{3a}$$

$$p=\frac{3aC-b^2}{3a^2}$$

$$q=\frac{2b^3-9abC+27a^2d}{27a^3}$$

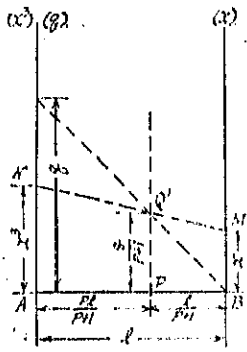
$$x^3+px=q$$

トシテ原方程式ヲ

ナル形ニ變シテ求メ逆ニXヲ知ル事ヲ得

此ノ式中Qカ負數ナル時ハQノ絕對値ヲ用ヒテ根ヲ求メ其ノ根ノ符號ヲ更ヘレハ可ナルカ故ニ
以下Qカ正數ナル場合ノミヲ説明セン

(イ) Pカ正數ナル場合



第十六圖

此ノ場合ニハ只一ツノ正根ヲ有ス

B(β)軸ニ一定ノ目盛リヲナシトC(γ)軸ニモ之ト同様ノ目盛リヲナ

シ其ノ左側即チA(α)軸ニハ前者ノ立方根ニ相當スル目盛リヲ施

ス

B(β)軸ハαヲ示スモノニシテA(α)軸ハQヲ示ス普通ノ目盛リヲ

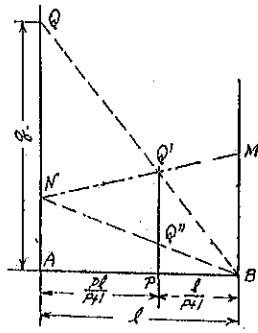
リ而シテA(α)軸上ノαハα³ノ長サヲ表ス目盛リナルカ故ニ前者

ノ立方根ニ相當スル目盛リヲ施セリ又横軸 AB 上ノ B ヨリ $\sqrt[p+1]{}$ ナル距離ニ P 點ヲ求メ(斯クノ如キ點ニハ p ナル目盛リヲ施セルモノナリ) $A(Q)$ 軸上ニ q ナル値ヲ有スル點ヲ Q' トシ BQ' ヲ結ビ P 點上ノ垂線ト交ル點ヲ Q'' トスレハ

$$PQ'' = \frac{AQ'}{p+1} = \frac{q}{p+1}$$

トナル而シテ常ニ Q' 點ヲ過キル直線ヲ Q'' 點ノ周リニ回轉シ $B(Q)$ 軸及ヒ $A(Q)$ 軸ト交ル點ヲ夫レ夫レ M N トシ若シ M N カ丁度相等シキ數字ヲ示ス場合ニハ其ノ圖形カ方程式 $x^3 + px = q$ ヲ満足スヘシ

第十七圖ニ於テ M 及ヒ N カ共ニ q ナル目盛リヲ示スモノトス



第十七圖

$$AN = q \quad BM = q$$

$$PQ'' = \frac{q^3}{p+1}$$

$$Q'Q'' = \frac{pq}{p+1}$$

$$\therefore PQ' = PQ'' + Q'Q'' = \frac{q^3}{p+1} + \frac{pq}{p+1} = \frac{q^3 + pq}{p+1}$$

然ルニ $PQ' = \frac{q}{p+1}$ ナルカ故ニ

$$q^3 + pq = q \quad \text{カ満足セラル}$$

(ロ) p カ負數ニシテ $\left(\sqrt[p]{\frac{q}{p+1}}\right)^3 + \left(\sqrt[p]{\frac{q}{p+1}}\right) < 0$ ナル場合

此ノ場合ニハ $\sqrt[p]{\frac{q}{p+1}}$ ナル只一ツノ正根アリ

B(3) 軸ヲ下方ニ延長シテ前述ノ場合ト對稱ナル目盛リヲ施シ其ノ上ニM點ヲ求ムヘシ

$$BM = a, \quad (-p) = p'$$

$$AN = a^3$$

$$PQ' = \frac{a^3}{p'+1}$$

$$QQ'' = \frac{p'a}{p'+1}$$

$$\therefore PQ = PQ' - QQ'' = \frac{a^3 - p'a}{p'+1}$$

$$\text{然ルニ } PQ = \frac{q}{p'+1}$$

$$\therefore a^3 - p'a = q$$

(イ) pカ負數ニシテ $\left(\frac{q}{2}\right)^2 + \left(\frac{a}{3}\right)^3 \wedge 0$ ナル場合

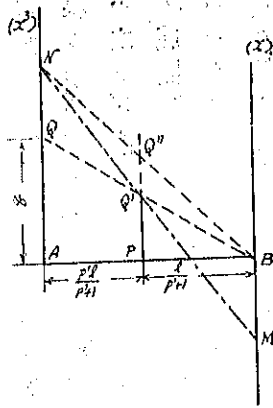
此ノ場合ニハ $\sqrt[3]{p}$ ナル一ツノ正根ト $-\frac{2}{3}\sqrt[3]{p}$ ナル二ツノ負根トヲ有ス

正根ヲ求ムルニハ(ロ)ノ場合ト全ク同様ニシテ負根ヲ求ムルニハ $A(a^3)$ 軸ヲ下方ニ延長シテ之ト對稱ノ目盛リヲ施シ其ノ上ニN點ヲ求ム此ノ場合ニハMトNトカ相等シキ目盛リヲ示ス事必スニ回アルカ故ニ二ツノ負根ヲ知ルヲ得

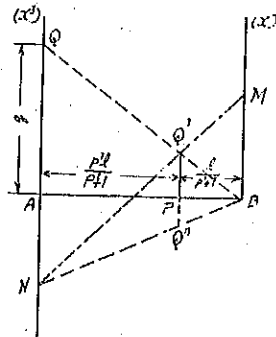
$$AN = -a^3 = a_1^3$$

$$BM = -a = a_1$$

$$PQ = \frac{q}{p'+1}$$



第 十 八 圖



第 十 九 圖

根ヲ與フヘシ (注意)附圖 PL. 4. 參照) 故ニ此ノ圖形ニテ求メタル根ノ符號ヲ變スレハ原式ノ二ツノ負

如何ナル根ヲモ求メ得ヘキ圖形ヲ一枚ノ圖面ニ表ス事ハ不可能ノ業ナルカ故ニ PL. 4. ニ於テハ根カ 0.25 ヨリ 2.5 マテノ間ノ値ヲ有スル場合ニ於テノミ解ク事ヲ得ルモノナレハ其ノ範圍外ノ根ハ之ヲ 10ⁿ 倍シテ必ス 0.25 ト 2.5 トノ間ノ値タラシメサルヘカラサルカ故ニ解法ヲナス前ニ先ツ根ノ範圍ヲ考ヘテ上記ノ範圍外ニアル場合ハ常ニ係數 p 及ヒ q ノ變化ヲ行フヲ要ス即チ根ヲ 10ⁿ 倍スルタメニハ p ヲ 10²ⁿ 倍シ q ヲ 10³ⁿ 倍スルモノトス附圖ヲ使用スル場合ニ根カ 1—2.5 間ニアル時ハ p, q 軸ノ目盛リヲ用ヒ 0.25—1 間ニアル時ハ X Q 軸ノ目盛リヲ用フ(完)

$$PQ'' = \frac{x_1^3}{p'+1}$$

$$Q'Q'' = \frac{p'x_1}{p'+1}$$

$$\therefore PQ = Q'Q'' - PQ'' = \frac{p'x_1}{p'+1} - \frac{x_1^3}{p'+1} = \frac{p'x_1 - x_1^3}{p'+1}$$

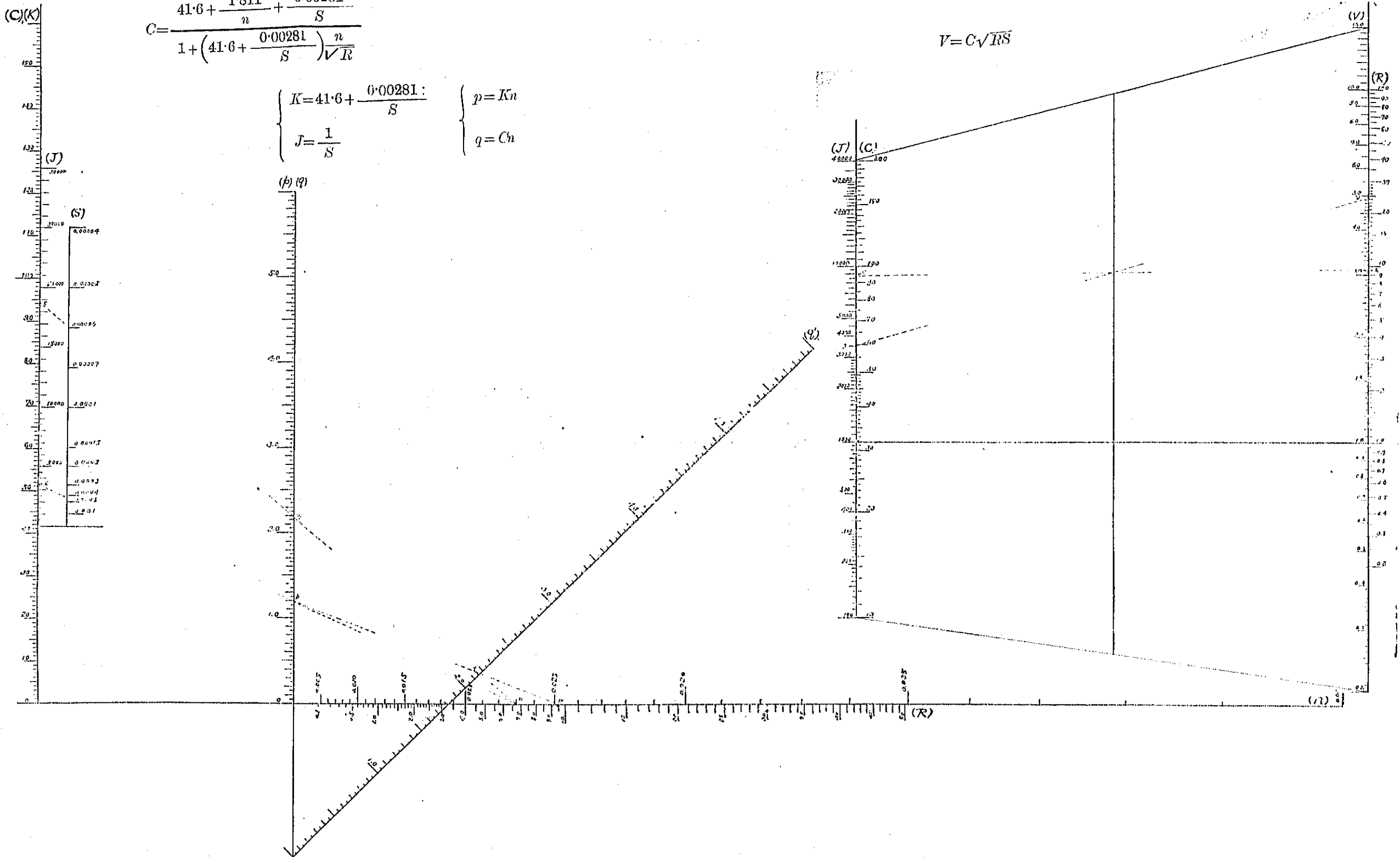
$$\therefore p'x_1 - x_1^3 = q$$

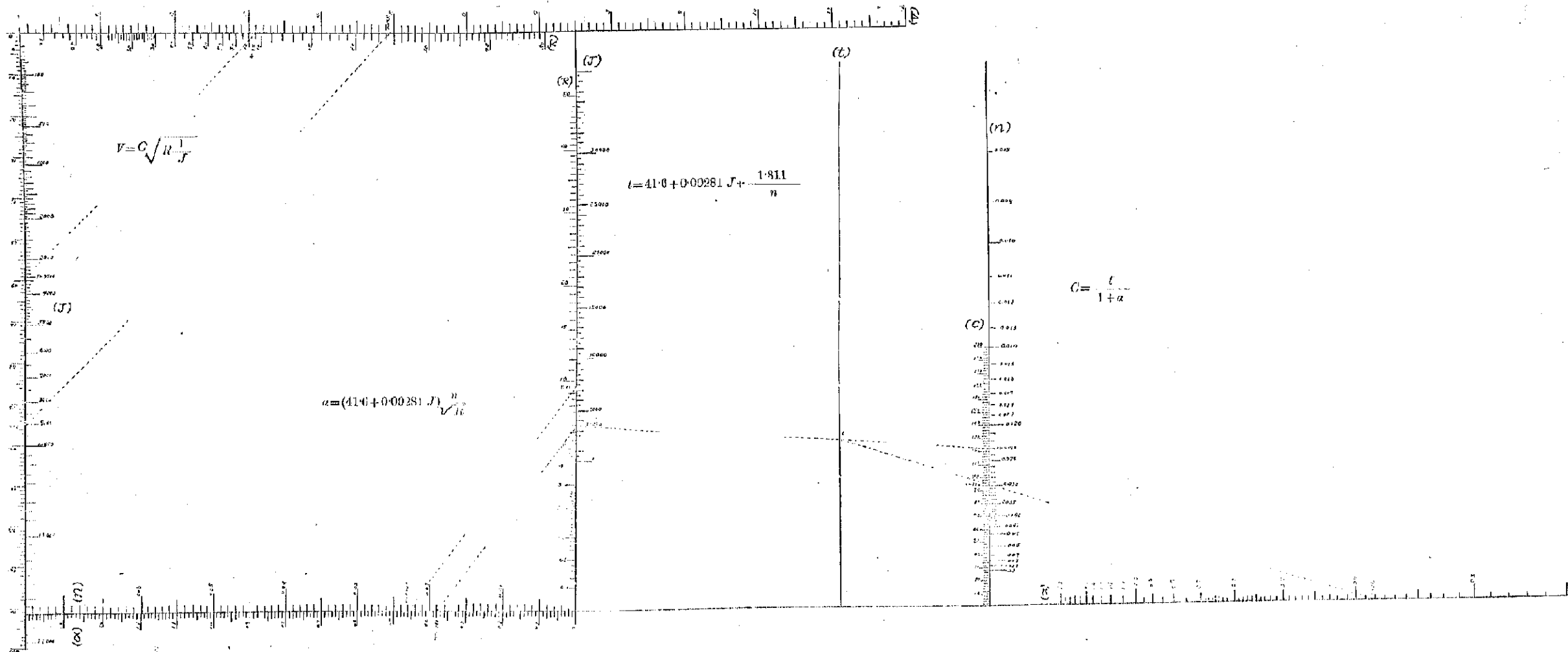
$$\therefore x^3 - p'x = q$$

$$C = \frac{41.6 + \frac{1.811}{n} + \frac{0.00281}{S}}{1 + \left(41.6 + \frac{0.00281}{S}\right) \frac{n}{\sqrt{R}}}$$

$$V = C\sqrt{RS}$$

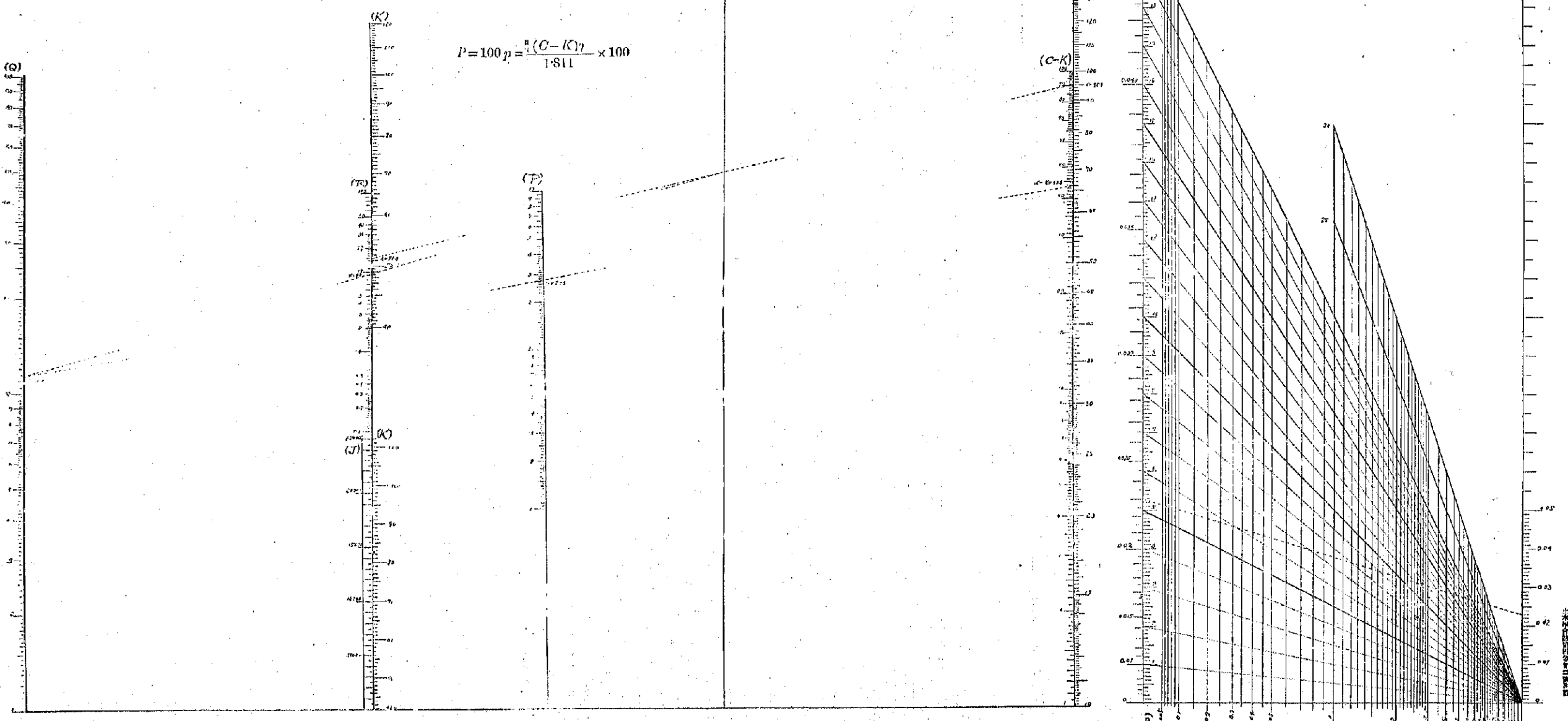
$$\begin{cases} K = 41.6 + \frac{0.00281}{S} \\ J = \frac{1}{S} \end{cases} \quad \begin{cases} p = Kn \\ q = Cn \end{cases}$$





$$Q = 10000 \gamma = \frac{1.811 \sqrt{R}}{C K} \times 10000$$

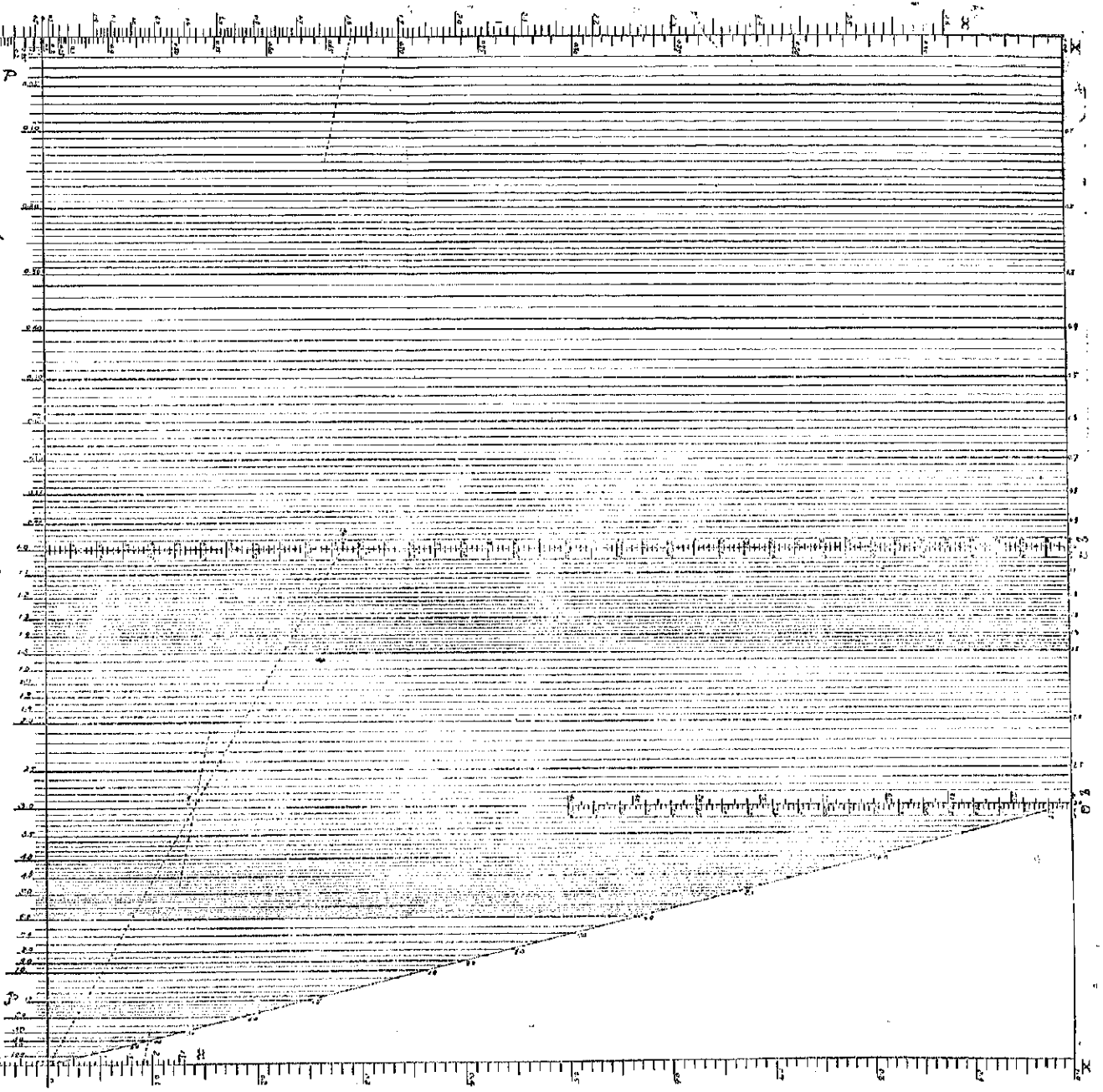
$$P = 100 p = \frac{(C - K) \gamma}{1.811} \times 100$$



$$n^2 + pm_1 = Q$$

$$n = \frac{-P + \sqrt{P^2 + 4Q}}{200}$$

十米每分每时每时



For $x^3 + px^2 = q$
 for $0.95 < x < 1.0$
 $1.0 < x < 2.5$

For $x^3 + 3x = 11.35$
 $x = 1.81$

